

令和5年度日本体操学会公募研究プロジェクト報告書

研究題目 体づくり運動の意識変容に関する事例的研究

研究者氏名（所属） ○住本 純（神戸女子大学）
沖田 祐蔵（日本Gボール協会）
川原 良夫（江東区立第四砂町中学校）

報告

1. 目的

これまでの実践経験を通して形成した保健体育教師の体づくり運動への意識が、単元での授業実践を通して、どのような過程で変容するのか。また変容の契機や要因は何であるか。以上2点について、教師の語りの記述とその解釈を通して明らかにすることを目的とする。

2. 概要

上記の目的を明らかにするために、本研究ではナラティブ・アプローチを採用した。対象者は教師歴10年の私立中学校高等学校の教諭（保健体育科主任）である。その対象者から収集したデータは、打ち合わせ等も含めた研究実施期間（2023年4月～11月）における9回の非構造化インタビュー、授業実践に支援的な立場で参与観察した筆者が作成したフィールドノーツの記録、授業資料のドキュメントである。また収集されたデータは、教師の意識変容プロセスを事例分析した田中（2011）の分析観点をを用いて分析された。

3. 結果（または成果）

「前提」として、体づくり運動に対する重要性の欠如や単元実施の難しさといった意識が語られていた。しかし、上述した通り、打ち合わせや単元進行とともに、その「前提」に気付く、「前提の源と結果の吟味」を行い、「前提は正しいのか」と省察を行っていた。その3段階の省察を行うことで、対象者はこれまでの体づくり運動への意識を問い直し、授業イメージを構築させ、単元設定の方向性や目標、内容、評価への理解から、その領域・単元での実践に関する重要性を認識するといった意識に変容していた。このことから、対象者は体づくり運動に対する意識変容という「発達」に至ったといえる。以上の結果に基づき、対象者の「体づくり運動への意識変容過程」をモデル化したものを図1に示す。

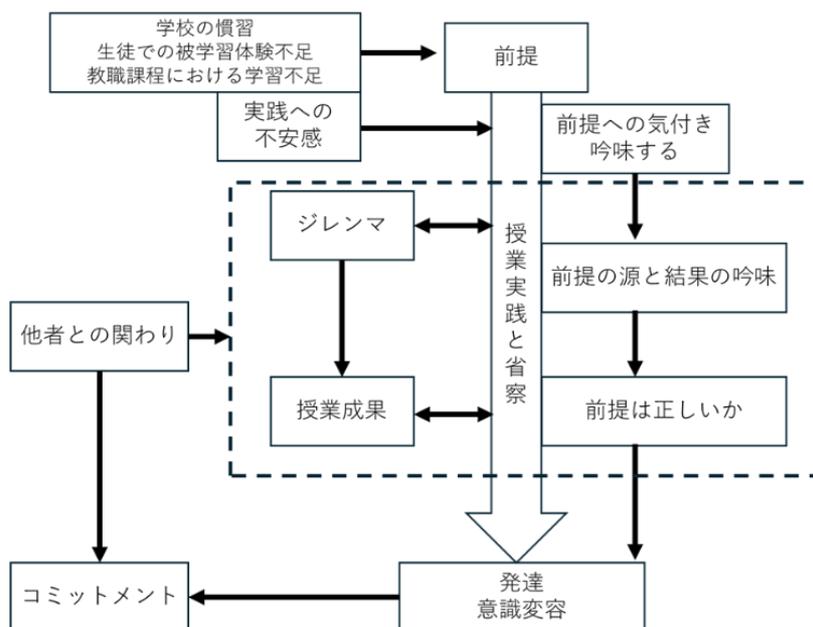


図1. 体づくり運動の意識変容過程